



2008 年 12 月 22 日

子どもたちの理科離れ問題への取り組み
経済産業省 平成 20 年度
社会人講師活用型教育支援プロジェクトに参加
 マルハニチロは地域コーディネーターの(株)リバネスと共同で、
 サケの DNA 抽出実験を千葉県の小中学校で実施しました

株式会社マルハニチロホールディングス（本社：東京都千代田区、社長：五十嵐勇二）は、千葉県内の小中学校に中央研究所研究員を特別講師として派遣し、理科の実験授業を行いました。

子どもたちの理科離れが懸念されている今日、教育現場だけでなく、科学技術に関わる企業にも教育活動への積極的な参加が求められています。こうした背景のもと、経済産業省は文部科学省と連携し、産業界の技術者などを活用し、子供たちが学ぶ理科単元と実社会とを結びつけた、理科授業の実施を支援する『社会人講師活用型教育支援プロジェクト』を実施することになりました。

今回の取り組みは、『社会人講師活用型教育支援プロジェクト』の地域コーディネーター（ ）である株式会社リバネス（本社：東京都新宿区、社長：丸幸弘）が経済産業省に提案した「教育応援企業と連携した研究所若手人材による 4 5 分型実験教室とリレー型実験教室モデルの開発」が採択されたことをうけ、教育応援企業の 1 社としてマルハニチロが賛同し、実施となったものです。

2008 年 12 月 10 日（水）、17 日（水）、千葉県香取市立佐原小学校 5 年生を対象に、サケの生態の観察とサケの白子から DNA を抽出する実験を行う「僕らが食べるおいしいサケの謎に迫る～サケの誕生物語と生命の設計図の秘密～」の授業を行いました。この授業は小学 5 年生理科単元「たんじょうのふしぎ」の発展として実施しております（【参考資料】をご参照ください）。2009 年 1 月には千葉縣市原市内の小中学校でも同様の実験授業を実施する予定です。

（ ）地域コーディネーター：地域の教育界、産業界とネットワークを有する企業・NPO 等のこと

以 上



授業を行うマルハニチロ研究員



サケの発眼卵の観察



DNA が見えてくるかな？



DNA の抽出成功！

【参考資料】

社会人講師活用型教育支援プロジェクトのしくみ

マルハニチロでは社会人講師活用型教育支援プロジェクトに参加するにあたり、理科に関わる教育指導要領の単元に沿った教育プログラムを作成しました。この教育プログラムでは、マルハニチロが創業以来100年以上にわたり食品加工の原料として扱ってきたサケを教材として使い、通常食卓でしか見ることのない「サケ」の生態を紹介します。また、サケは捨てるところのない魚であり、残渣から有効成分を抽出し健康補助食品などの開発生産を行うマルハニチロの技術を生かし、子どもたちに実際にサケの白子からDNAを抽出する実験を行ってもらい、生命の設計図と命のつながりを学ぶ授業を企画しました。食べ物を大切にすることは命を大切にすること。そして命が育つのに必要な自然を大切にしたいというメッセージも伝えていきます。授業を通して、人間は他の生物の恵みを受けて生きているという「命の尊さ、大切さ」を伝えることができると、考えています。

理科実験教室の概要

- (1) 単元名：たんじょうのふしぎ
- (2) 対象学年：小学校5年生、6年生
- (3) 授業名：僕らが食べるおいしいサケの謎に迫る～サケの誕生物語と生命の設計図の秘密～
- (4) 実験概要：
 - サケの生態（座学）
 - サケの観察 発眼卵と成魚の観察
 - サケの白子からDNAを抽出する実験
- (5) 実験時間：45分
- (6) メンバー：(株)マルハニチロホールディングス 中央研究所研究員

今後の取り組み

マルハニチロでは今回の社会人講師活用型教育支援プロジェクトを通じた経験をもとに、今後も地域社会と連携した食に関する社会貢献活動を行っていきたいと考えています。